



# おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2022年10月)



せんりひじり幼稚園  
副園長 安達かえで

## 「 個の育ちから、集団の育ちへ 」

いよいよ明日は運動会ですね。

例年より1週間遅い日程にしましたが、今年は10月に入ってから夏のような暑さが続き、運動会の練習も大変でした。ようやく秋らしい空になってきました。今日は青空に「にこちゃんマーク」の雲が浮かんでいるのを子どもが発見して、ほっこりしました。明日は、いいお天気になりますように。

年少組はダダックというアヒルからお手紙が届き、CDのプレゼントをもらい、その曲に合わせてみんなで一緒に楽しく踊ります。昨日は裏庭やクラスの部屋にダダックの足跡があって、「ダダックがやってきた!!」と子どもたちは大騒ぎ。先生たちは子どもたちをファンタジーの世界に誘いながら、運動会を盛り上げていきます。3歳児の運動会は、想像の世界を楽しみながらみんなで一緒に活動する面白さを経験します。



年中組は、パイナマンから手紙が届き、どうやったらパラバルーンがうまくできるかを探ります。一人ではどうにもできない大きなパラバルーンを、みんなで息を合わせて動かすことで、きれいに回ったり大きな山になったり、気球になって空を舞ったりと、見ているだけでも心が躍ります。4歳児は、楽しむだけでなく、クラスの友達と力を合わせる楽しさを経験します。



さて年長組になると、自分たちで開会宣言をしたり、オープニングパレードやリレー、そして組体操と、多くのことにチャレンジします。

リレーは1人1周を走ってクラス全員でバトンを繋ぎます。走るのが得意な事、そうでもない子がいる中で、どのように順番を決めて、みんなの力で勝利するかを何度も何度も話し合いを重ねていきます。その日の調子で走れない子もいたり、抜かされたショックで座り込む子もいたりします。みんなの心が揺れ動く中で、その子の気持ちを理解しながら次はどうやったら走れるのか、どうやったらバトンを繋いでいけるのか、時間をかけて話し合い解決策を探ります。「どうしたらいいかなあ?」の先生の問いかけに、様々な意見が飛び交います。驚いたことに、決して誰かを責めることなく、その子が気持ちよく走れるように真剣にアイデアを出し合っていく子どもたち。春から一緒に過ごしてきた友達だからこそ、お互いを理解しているからこそ、その子に合った解決



策を見出そうとしているのだと思います。走る順番を変えて「ここで僕が一気に抜かすから大丈夫。」と心強いことを言ってくれる子もいます。「みんなで秘密特訓をしよう」と、たけ先生にバトンの渡し方を教えてもらいに行くクラスや、お帰りの時間ぎりぎりまで走る練習をしている子どもたちもいます。

先週、リレーの練習で負けたクラスの保護者の方が、「今のうちに負けておいた方がいいですね。いい経験になるから。ここからみんなで考えますからね。」と語ってくださっていると聞きました。こんな風に子どもの育ちを理解してくださっていることに感謝です。毎日のようにドラマが生まれ、それを乗り越えようとする子どもたちに感動させられっぱなしです。「これだから運動会はやめられないですね。」とつぶやく澤木京子先生でした。



組体操の最後はスペシャルと言って、毎年、テーマを決めてその動きをクラスのみんで表現します。今年のテーマは「水」です。去年はオリンピックイヤーでしたので「炎」でしたが、今年は雨が多かったからか「水」。「水」と聞いた時に、降る雨や流れる水を思い浮かべましたが、子どもたちは、驚くほど多様なイメージを持っていたようで、先生たちもびっくりしていました。そもそも最初は地球に水が無くて火山が爆発して雲ができ、そこから雨が降って川になって・・・と水の誕生を語り始める子や、水蒸気が上がっていくと凍ってそれが溶けて雨が降り、泥水は砂利の間を流れることで透き通っていくことや、ミクロの世界で見る水滴が落下した時にできる波紋のキレイな輪を表現するクラスもあります。水の粒、跳ねる水、流れる水、凍った瞬間、火山の噴火、波紋……。体で表現することは非常に難しく、なかなかそれらしく見えないこともあるかもしれませんが、子どもたちそれぞれが持つイメージを、それぞれのやり方で表現し、友達とタイミングを合わせて作り上げてきました。クラスとしての「水」の表現は圧巻で、鳥肌ものです。



運動会の取り組みを通して、5歳児は私たちの想像を超えて、素晴らしい力が積み上がっていることを感じます。入園当初から、個々の育ちを大切にしてきたことが、5歳になるにつれてその個々が響き合い、集団の育ちとして輝いていくのを実感します。子どもってスゴイですね。

しかし、明日は何が起こるかわかりません。些細なことがきっかけで気持ちが折れてしまうことがあるかもしれません。多くのお客さんの前で緊張して力が発揮できないかもしれません。勝ると持っていたのにこけてしまうことがあるかもしれません。それもこれもすべて含めて、子どもにとっていい経験になるように、気持ちを受け止め、前向きな言葉をかけたいですね。

では、明日よろしくお願いします。

